

【基本情報】

教科	芸術	学年	2年	教科書	
科目	音楽研究	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	MUSIC NAVIGATION
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実技を中心に授業を進めます。 ・内容は、歌唱（独唱・合唱）、器楽演奏（アルトリコーダー・和楽器）、鑑賞（作曲家の生涯と作品）、楽典（楽譜の基礎知識・楽曲の構成） ・定期考査は実施しませんが、授業の中で実技テストと単元内容に応じた小テストを実施します。 ・鑑賞後は、確認テストを実施しますので、ストーリーや時代背景と楽曲の関係も把握しながら鑑賞しましょう。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜や音楽的基礎知識を理解して、より深みのある表現（歌唱・演奏）ができる。 ・鑑賞を通して、音楽を感じる力とその表現力、また、音楽文化についての知識をより深める。 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、発声練習を用いて、個々の技術力や感性をより磨き、豊かな声で歌唱できるよう取り組む。 ・表現（歌唱や器楽）分野では、基礎練習から楽曲演奏まで段階的に技術力を磨けるよう取り組む。 ・鑑賞分野では、作曲家の生涯を振り返り、作品と時代背景との結びつきを探求し幅広く音楽文化に触れる。 ・鑑賞教材は、オペラDVDを使用し、ストーリーを探求する。 ・器楽演奏では、アルトリコーダーを使用しますので準備して下さい。 ・和楽器では、三味線を実施します。（音楽室にあるものを使用します。） ・教科書、ミュージックノート、プリントファイルは、毎時間使いますので忘れないようにしてください。 ・音楽史では、ギリシャ時代から現代までの流れを学習します。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、ミュージックノート、プリントファイル、筆記用具は、毎回必ず使用します。 ・実技教科ですので、得意、不得意に限らず、積極的に授業に参加すること。 ・鑑賞の時は、心を落ち着け、じっくりと音楽を体の中に取り組み、音楽の素晴らしさを体感する。 ・鑑賞後は、内容の確認テストがあるので、鑑賞時は、メモを取りながら鑑賞して下さい。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト前には、プリントやミュージックノートを復習する必要があるでしょう。（20分位） 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽演奏では、アルトリコーダーを実施しますので、持っていない人は準備しておいてください。 				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	毎時間、積極的に取り組み、得意、不得意に限らず、どの分野においても偏らず意欲的に取り組む。	30%	ノート作成の状況、発言状況を相対的に判断し、評価します。
B. 思考・判断・表現	表現（歌唱や器楽）分野で、基礎技術力を身につけ、楽曲を豊かに表現する。 楽譜を正確に読み取り、更に自分なりの表現を探求する。	30%	実技テストを通して、基礎力、表現力を評価します。
C. 資料活用能力	鑑賞を通して、作品を探求し、作曲家の生まれ育った国の特色や時代背景を考察し、歴史と関連付ける。 作品に込められた作曲家の意図を探求する。	10%	提出プリントの作成や小テストの状況を評価します。
D. 知識・理解	様々な作曲家について触れ、その生涯や時代背景、作品と関連づけ考察している。 楽典分野で、基礎的な音楽知識を身につけている。	30%	小テストを通して、理解状況を判断し評価します。
E.		%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
楽典 (基礎本的音楽知識)	1 2	音楽を形成している様々な要素について学習し、楽譜や音符に関して理解し、表現(歌唱・演奏)できるよう取り組む。 □音符 □音楽用語 □強弱記号 など □小テスト		○		○		授業内で実施する小テストで理解度、到達度を確認します。表現(歌唱・演奏)するにあたって必要な事柄ですので、しっかりと確認することが大切です。
表現(独唱)	1 3	基本的な発声(腹式呼吸・ベルカント唱法)を身につけ、日本語や外国語の発音の響きを大切にしながら、また、音楽的背景や文化的背景を理解しながら、より難しい楽曲にチャレンジします。 □日本歌曲 □イタリア歌曲 □ドイツ歌曲 など □実技テスト			○	○	曲想と歌詞の内容・楽曲の時代背景と関連付けて歌唱できるようにする。 その国特有の発音を正しく発音し、イントネーションを大切にしながら歌唱する。 □実技テストの実施により、技術力の向上や表現力の豊かさを確認します。	
表現(合唱)	1 2	発声練習・パート練習・全体練習の流れで練習し、ハーモニー感を味わいながら合唱を完成していく。(個々の努力が不可欠ですので、積極的に取り組むように) □2重唱 □3重唱 など	○		○		パートの音楽的役割を理解し、ハーモニーや音楽表現を通して、合唱の素晴らしさを体感する。 1年間の集大成として、合唱発表会を実施し、成果の発表をする。	
器楽(アルトリコーダー)	1 2	リコーダーの音色や奏法の特徴を生かし、豊かな表現を工夫しながら演奏する。 □音階(アルペジオ) □練習曲(様々な調での演奏) □楽曲 など □実技テスト			○	○	様々な表現形態により、器楽の特徴を生かしながらイメージを持って演奏する。 □実技テストの実施により、技術力の向上や表現力の豊かさを確認します。	
鑑賞 (作曲家の生涯と作品)	1 5	楽曲の文化的背景や、作曲家や演奏者の表現についてその特徴や技術力を理解しながら鑑賞します。また、各国・我が国の音楽や郷土の伝統音楽の種類と特徴を理解して鑑賞します。 □オーケストラ □オペラ □ミュージカル など □確認テスト			○	○	様々な演奏形態を鑑賞し、音楽と社会、音と生活について考察する。 □確認テストにより、内容把握や作曲家の意図するものやその時代背景との関連を探り、楽曲の完成度を味わう。	
	6 4							

【基本情報】

教科	芸術	学年	2年	教科書	
科目	書道研究	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	
科目概要	生徒の能力・適性・興味・関心等に応じた活動を展開し、個性豊かな書の能力を高めます。 書の文化や伝統についての理解を深めます。				
到達目標	個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばします。				
授業の進め方	ほぼ毎時間、書道実技が中心です。 プリントや鑑賞、書道理論なども適宜織り交ぜます。				
留意事項	「継続は力なり」・・・ただ提出された作品のみでなく、追求する過程も評価します。 楽しく伸びやかな表現を目指します。 書道用具は、評価の公平を期すために、全員同じ用具を使用します。 書道用具は、書道室内に保管します。 移動・準備は、休み時間中に完了させてください。				
家庭学習					
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 書への関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化の関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	10%	授業に対する姿勢や積極性を評価します。
B. 書表現の構想と工夫	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	20%	作品の変容の過程を評価します。 討論をする姿勢や、考えたことを伝えようとする積極性を評価します。
C. 創造的な書表現の技能	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけている。	60%	提出された作品を評価します。
D. 鑑賞の能力	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書の良さや美しさを創造的に味わっている。	10%	書の美しさを知識として理解しているか評価します。
E.		%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
オリエンテーション	1	シラバスの説明 各自の目標設定	○					授業内容を知る。
漢字仮名交じりの書 1	8	商品名を書く 作品制作	○	○	○	○		商品に合う名前を考え、表現を工夫しようとする。 客観的に認められる表現を追求しようとする。
漢字の書 1	16	臨書一始平公造像記 作品制作（個人から共同作業へ） 合作	○	○	○	○		造像記の特徴を理解し、表現しようとする。 統一感のある合作を仲間と協力して完成させようとする。
漢字仮名交じりの書 2	10	刻字 作品制作	○	○	○	○		彩色を加え、室内鑑賞用に仕上げようとする。
漢字仮名交じりの書 3 漢字の書 2	8	小楷 実用書の習得	○		○	○		小楷による表現に意欲的に取り組もうとする。
漢字仮名交じりの書 4	13	硬筆	○	○	○	○		実用書の習得を目指し、硬筆に意欲的に取り組もうとする。
漢字仮名交じりの書 5	8	ガラス絵 作品制作	○	○	○	○		心から書きたい言葉を得ることができるようにする。 鑑賞に堪えうる言葉を選択できるようにする。 言葉と空間の関わりを理解することができるようにする。

【基本情報】

教科	芸術	学年	2年	教科書	
科目	美術研究	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・美術Iで学んだ内容をさらに深く掘り下げて学ぶ。 ・美術を愛好する心情を育て、個性豊かな表現と鑑賞の能力を養う。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的要素を深く追求し、主題に合った表現方法を工夫して表現できるようになる。 ・主題について自ら考え、アイデアを練り、創造的に表現することができるようになる。 ・多種多様な美術作品に触れ、その良さを感じ取り、自己の表現に生かすことができる。 				
授業の進め方	<p>ほぼ毎時間、実技が中心です。</p> <p>プリントやDVD・スライド等による鑑賞をおこないます。</p>				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実技が中心なので、作品は出来る限り完成させて提出するようにしてください。 ・毎時間の取り組み姿勢を重視します。受け身にならず、集中して積極的に制作に取り組むようにしてください。 ・鉛筆（B、2B程度のもの）、消し具は毎回忘れずに用意してください。 ・絵の具、スケッチブックは美術室内に保管します。 				
家庭学習	<p>基本的に必要ありませんが、作業が遅れて時間内に完成できない場合は、家庭での制作が必要となる場合もあります。</p>				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現技法や美術文化に関心を持ち、主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしているか。	10%	授業に取り組む姿勢や積極性を評価します。
B. 発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、自然、自己、社会などを深く見つめ、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているか。	30%	スケッチブック等のアイデアスケッチやメモ。作品の制作過程から評価します。
C. 創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能をも身に付け、主題にあった表現方法を工夫し創造的に表しているか。	50%	提出された作品をもとに評価します。
D. 鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や心豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化などの理解を深め、そのよさや美しさを多様な視点から創造的に味わおうとしているか。	10%	鑑賞ノートなどの提出物で評価します。

単元名と単元の内容	配当時数	学習内容・学習のポイント	観点別評価				備考(到達目標, 評価の観点, 留意点など)
			関心 意欲 態度	構 想 と 工 夫	技 能	鑑 賞	
風景を描く	20	<ul style="list-style-type: none"> ・描く題材を探し写真を撮る ・構図の工夫 主役と脇役 ・遠近の表現 ・色彩の調和(基調色、アクセント) ・アクリル画の表現技法 	○	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な風景から自分の視点で主題を見つけ出すことができる。 ・主題やねらいを生かす構図を工夫することができる。 ・基調色や色の対比、遠近による色の変化などを考え工夫して調和ある色調を作り出すことができる。 ・アクリル絵の具の特性を生かした表現技法を工夫できる。
デザイン	20	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える工夫、発想力 ・色彩・配色の技法 ・文字のレタリング、配色の工夫 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・メッセージを伝えるために構想を練ることができる。 ・色彩配色の技法について理解し、工夫して視覚伝達を表現することが出来る。 ・意図に応じて、文字のレタリングや配色を工夫することができる。
イメージを抽象化・立体的に表現する	20	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを考え構想を練る ・意図に応じた素材の生かし方 ・色彩の表現効果 ・様々表現技法 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・意図に応じて様々な素材を探し、自由に組み合わせて用いることができる。 ・アイデアを表現に結びつけるために構想を練ることができる。 ・意図に応じて様々な表現技法を工夫して作品に生かすことができる。
鑑賞 現代の美術	4	<ul style="list-style-type: none"> ・20世紀後半～現代芸術運動と作家 	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ・20世紀後半から現代の芸術運動について理解し、代表的な作家について親しむことができる。
	64						

※このシラバスは、あくまで予定を示したもので、状況により時間配分や内容などを変更することがある。

【基本情報】

教科	外国語	学年	2年	教科書	Revised LANDMARK English Communication II (KEIRINKAN)
科目	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数 (年間予定コマ数)	4 (128)	副教材	・英単語・熟語 Bricks 1 (いづな書店) ・改訂版 Jet Reading 英語速読テスト Level 1 (数研出版) ・三訂版 Listening Laboratory Standard α (数研出版) ・英文法・語法 Vintage 3rd Edition (いづな書店)
科目概要	中学校とコミュニケーション英語Ⅰ及び、英語表現Ⅰで学んだことを基礎にして、聞く・話す・読む・書くといった言語活動を授業内で実施し、定着を図る。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書で新しく学ぶ単語・熟語576語(句)を理解する。(語彙力) ・課末の演習問題の英文を完全に覚える。(英文力) ・英語で自分の考え・意見を言うことができる。(英語での表現力) ・多様な英文を決められた時間内で概要把握ができる。(速読力) ・普通の速度の英文を聞き、大まかな内容を理解することができる。(リスニング力) 				
授業の進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習を前提に教科書を中心にした授業を進めていくため、単語・熟語の意味を辞書で調べ次の授業で扱う本文の概要をとらえて授業に臨むこと。 2. 英語を読む・聞く・書く・話すという4技能のバランスを考えた授業展開を行う。 3. 小テスト・課題学習を随所に取り入れていく。(目標点数に達しない場合は追試を実施) 4. ペア学習・音読の練習を積極的に取り入れ、英語の音声に慣れさせていく。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書・ノート(またはファイル)・辞典をいつも用意しておくこと。 ・評価は4回の定期考査(中間・期末)、夏季・冬季休業明けの確認テスト、単語テスト、提出物、日常の授業への取り組み姿勢をもとにして評価する。 ・定期考査では10~20点の割合でリスニング問題を出题する。 ・授業内でわからないことや疑問に思うことがあるときはその日のうちに質問し解決しておくこと。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習をしっかりと行うこと(継続は力なり) ・テレビ等の語学講座を利用し、英語の生の音に触れる機会を多く持つこと(習うより慣れよ) ・英語検定等の資格試験も積極的に活用し、各自の英語力向上に役立てていくこと 				
備考	・この授業は週4コマ実施する(年間総授業数127コマ)。				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワーク等の活動に積極的に取り組んでいるか。	20%	授業時の活動状況 パフォーマンステスト 英文の暗唱
B. 外国語表現の能力	文法項目を使用した英文の作成、及び教科書本文のサマリー作成を適切に行うことができるか。	30%	ハンドアウト(英文・サマリー作成) 定期考査(英文・サマリー作成) パフォーマンステスト
C. 外国語理解の能力	教科書・単語集の英単語を身につけて、教科書本文、及び補助読解テキストの英文の概要を理解できるか。	30%	小テスト(単語テスト)、ハンドアウト(読解演習) 定期考査(Q&A/内容把握) 休み明け等の課題提出/休み明けテスト(春・夏・冬)
D. 言語や文化についての知識・理解	教科書本文で取り上げられテーマに関わる内容・背景知識を理解し意見や感想を表現できるか。	20%	ハンドアウト(自由英作文) 定期考査(自由英作文)

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
1. I'm the Strongest!	12	車いすテニスプレイヤー国枝信吾選手(スポーツ・生き方)				○	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすテニスのルールを理解する。 ・慎吾が車いすテニス選手になるまでの経緯を理解する。 ・慎吾がどのようにスランプを克服したか理解する。 ・プロ車いすテニス選手としての慎吾の願いを理解する。 ・一生懸命取り組んでいることについてエッセイを書く ・繰り返しを避けるための省略, 過去完了進行形について理解する。
2. Tokyo's Seven-minute Miracle	12	世界を驚かせた新幹線清掃チーム T E S S E I (職業・日本文化)				○	<ul style="list-style-type: none"> ・テッセイの仕事内容を理解する。 ・テッセイの仕事の特徴を理解する。 ・テッセイの仕事を支える日本の清掃文化について理解する。 ・テッセイの仕事への誇りについて理解する。 ・日本が世界に対して誇れることについて意見交換をする。 ・強調のための倒置, 形式目的語の it について理解する。
<前期中間考査> 前期中間考査まで25コマ	1						
3. Saint Bernard Dogs	12	スイスの国犬セントバーナードの歴史(動物・外国)				○	<ul style="list-style-type: none"> ・セントバーナード犬の救助犬としての歴史を理解する。 ・優秀な救助犬, バリーの功績を理解する。 ・セントバーナード犬が売りに出された経緯を理解する。 ・売りに出されるセントバーナード犬を救うため, スイスの人々がとった行動を理解する。

			○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・人間と親しい関係を築く動物について情報交換をする。 ・受動態の分詞構文、完了形の分詞構文について理解する。
4. Chanel's Style	1 2	ファッション界のカリスマ シャネルの生き方（女性・生き方）	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・IT業界とファッション業界、それぞれの革新者について理解する。 ・シャネルがシンプルで快適な服を作った時代背景について理解する。 ・シャネルが考案したファッション品を理解する。 ・革新者であり続けたシャネルの原動力を理解する。 ・好きな革新的人物についてエッセイを書く。 ・S + V + 分詞 / S + V + O + 分詞, 付帯状況を表す with + O + C について理解する。
<前期期末考査> 前期期末考査まで25コマ	1					
5. Science of Love	1 2	科学で解明する恋に落ちる原因 （心理・科学）	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ人は恋をするのかについての発表の概要を理解する。 ・子ども時代の経験、遺伝子、体内の化学物質、それぞれを理由とする3つの学説を理解する。 ・本文中の3つの学説で、どの学説に興味があるかとその理由について意見交換する。 ・同格の that 節、疑問詞 + do you think (+ S) + V? について理解する。
6. Gaud and His Message	1 2	建築家ガウディとその遺志を継ぐ 日本人彫刻家（芸術・生き方）	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ガウディとサグラダ・ファミリアの歴史を理解する。 ・外尾が専任彫刻家になるまでの経緯を理解する。 ・外尾が述べる、ガウディの信条について理解する。 ・ガウディと外尾についてエッセイを書く。 ・関係副詞の非限定用法、 if 節を用いない仮定法について理解する。
7. Letters from a Battlefield	1 2	硫黄島の戦いと兵士からの手紙 （戦争・平和）	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・硫黄島から兵士が家族に宛てた手紙について理解する。 ・硫黄島の戦いや栗林中将の作戦について理解する ・訪れてみたい日本の世界遺産について書き、発表する。 ・譲歩を表す複合関係詞、動名詞の意味上の主語について理解する。
<後期中間考査> 後期中間考査まで37コマ	1					
GTEC対策	4					
8. Edo: A sustainable society	1 2	江戸時代のリサイクル社会 （環境・歴史）	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の循環型社会について理解する。 ・今日のゴミ問題について理解する。 ・江戸時代の自然環境と生活水準の変化を理解する。 ・もったいないと思うものについて意見交換する。 ・注意すべき関係代名詞の非限定用法、独立分詞構文について理解する
9. AI and Our Future	1 2	AI技術が切り開く未来 （科学・生活）	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・AIとは何かを理解する。 ・ディープ・ラーニングの仕組みを理解する。 ・AIがもたらす産業の効率化について理解する。 ・AIの発展に伴う脅威と人類との共存について理解する。 ・AIの賛否について意見交換する。。 ・as if [though] + 仮定法、助動詞 + have + 過去分詞について理解する
10. Bhutan: A happy country	1 2	幸福の国ブータン(外国・国際社会)	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ブータンの地理と歴史を理解する。 ・ブータンの国民総幸福量への捉え方について理解する。 ・ブータン政府の政策を理解する。 ・国民総幸福量を上げるための策についてエッセイを書く。 ・強調構文、副詞節中の (S + b e) の省略について理解する。
後期期末考査 後期期末考査を含めて41コマ	1					* LESSON 10と前後する場合有り
年間予定授業コマ数	1 2 8					

【基本情報】

教科	外国語	学年	2年	教科書	Departure English Expression I Revised (TAISHUKAN)
科目	英語表現 I	単位数 (年間予定コマ数)	1 (48)	副教材	
科目概要	基本的な言語規則に基づいて、様々な場面に応じて適切に話すことや書くことが出来るようにし、あわせて論理的思考力や批判的思考力を養うことをねらいとしている科目である。				
到達目標	英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 各レッスンのモデル会話文を通して、発音・イントネーション、重要表現、文化背景等について学習する。また、文法事項を体系的に学習し、練習問題等で確実に身につけ、応用問題への基礎固めをする。具体的には 予習していることを前提に授業を進める。進むペースが速いので家庭での予習・復習が必ず必要となる。また、わからないところは授業中及び授業後に積極的に質問をすること。 リスニングやスピーキングの基礎になる音読練習を重視する。その意味を理解して積極的に声を出すこと。 Expressing で自分のことや自分の周りのことを英語で言えるようトレーニングする。間違いを恐れなくて意欲的に取り組むこと。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 音読練習やペアワークでは積極的に大きな声を出すこと。 予習・復習といった家庭学習を確実にやること。また毎回課題を出すので、正確・丁寧にやり、期日に遅れないよう取り組むこと。課題の提出については評価(成績)の1部となる。 ノート、筆記用具、辞書を必ず持参すること。もし、忘れ物をした場合は事前に申し出ること。 プリント等の配布物はファイルを用意して保管すること。 休み時間のうちに授業準備をしておき、チャイムと同時に学習できる体勢を整えておくこと。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> 最低でも1時間の授業で進む所までは予習をすること。モデル会話文は英文の意味を確認したら、3回以上は音読練習をすること。グラマーの解説文をよく読み、エクササイズの問題を解くこと。その際、わからないところは必ずチェックして、授業で確認すること。復習ではやはり音読練習を行い、解説文→問題といった具合に再度学習事項の確認をすること。予習→授業→復習で3回同じ部分の学習をするということを習慣づけること。 授業ではリスニングや音読練習の時間を十分にとることができないので、特に、リスニングについては、ラジオ・テレビの英会話番組を、また、単語集付属のCD等を活用し自ら学習すること。 				
備考	この科目は1年次からの継続履修科目である。				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> モデル会話に関心を持ち聞き、発話しようとしている。 間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。 	10%	授業中の活動・発表
B. 表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> モデル会話や例文を英語らしい発音で発話することができる。 自分や周りのことを話すことができる。 学んだ文法を使って、文章を書くことができる。 	5%	授業中の活動・発表・課題の提出
C. 理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選ぶことができる。 モデル会話を英語らしい発音で読むことができる。 パラグラフの構成を理解している。 	5%	授業中の活動・課題の提出・小テスト・定期考査
D. 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選ぶことができる。 モデル会話を英語らしい発音で読むことができる。 パラグラフの構成を理解している。 	80%	授業中の活動・課題の提出・小テスト・定期考査

【年間計画】

単元	配当時間	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
Lesson 11 Did You Get My Message?	5	[言語材料] 動名詞 [言語活動] 使っている伝達の方法について話す。 メールでの通信について話す。 スマートフォンを持つことについての議論を聞く。 SNSの便利さと問題について読む。 高校生がスマートフォンを持つことの是非について意見を書く。 書いた文章に基づいて話す。		○	○			伝達手段としてのスマートフォンの使用について積極的に話したり書いたりしようとする。 学んだ文法事項である動名詞を極力使って、情報伝達の方法としてのスマートフォンやSNSの使用について意見を書いたり話したりすることができる。 動名詞の用法・機能を正しく理解できる。 メールをはじめとする通信・伝達手段について、自らの経験を踏まえて功罪を考え、自らの行動につなげることができる。
Lesson 12 Do You Know the Sport?	5	[言語材料] 分詞 [言語活動] やってみたいスポーツについて話す。 最近観たスポーツについて話す。 マラソンの起源について聞く。 3つのスポーツの起源について読む。 興味のあるスポーツについて起源や見所などを調べて書く。 書いた文章に基づいて話す。		○	○			自分の好きなスポーツについて、積極的に情報を話したり書いたりしようとする。 学んだ文法事項である動名詞を極力使って、自分の好きなスポーツについてわかりやすい文章を書き、それに基づいて話すことができる。 分詞の用法・機能を正しく理解できる。 スポーツについて起源やルールなどを理解し、歴史や文化とスポーツとの関係について認識を深めることができる。
前期中間考査	1	(考査まで 11コマ)						
Lesson 13 Increasing or Decreasing?	5	[言語材料] 比較 [言語活動] 世界の人口と人口の多い国について知っていることを話す。 人口過剰のもたらす影響とその原因について話す。		○	○			人口問題について話したり、日本の少子化について、その原因や問題点を考え、解説する文章を積極的に話したり書いたりしようとする。 比較表現を使って人口過剰の原因と結果について話したり、高齢化の原因や問題点を述べた文章を参考に、少子化についての説明文を書き、それに基づいて話すことができる。

		アジアのいくつかの国々の人口密度についての説明を聞く。 世界の平均寿命についての文章を読む。 日本の少子化の原因と影響について書く。 書いた文章に基づいて話す。	○	○	○	○	比較の表現を正しく理解できる 世界の人口問題・平均寿命や日本の少子高齢化について理解し、その原因や問題点を理解することができる。
Lesson 14 A Person I Admire	5	[言語材料] 関係代名詞, 複合関係代名詞 [言語活動] 歴史上の尊敬する人物について話す。 存命中の尊敬する人物について話す。 杉原千畝についての説明を聞く。 マララ・ユスフザイについての文章を読む。 尊敬する人物について書く。 書いた文章に基づいて話す。	○	○	○	○	尊敬する人物について紹介する文章を積極的に話したり書いたりしようとする。 何人かの人物の生き方や業績を述べた文章を参考に、関係代名詞を使って自分が尊敬する人物について書き、それに基づいて話すことができる。 関係代名詞, 複合関係代名詞の用法や機能を正しく理解できる。 さまざまな人物の生き方や業績を理解し、自分の生き方につなげることができる。
前期期末考査	1	(考査まで 計 1 1 コマ)					
Lesson 15 Find Out More about Our Treasures	4	[言語材料] 関係副詞, 複合関係副詞 [言語活動] 日本と世界の世界遺産について知っていることを話す。 世界遺産に登録される理由と行ってみたい世界遺産について話す。 富士山が世界遺産に登録された理由についての対話を聞く。 アウシュヴィッツについての文章を読む。 訪れることを勧めたい世界遺産について書く。 書いた文章に基づいて話す。	○	○	○	○	自分が関心のある世界遺産について調べ、説明する文章を積極的に話したり書いたりしようとする。 関係副詞を使って自分の関心がある世界遺産について、モデル文を参考にわかりやすく書き、それに基づいて話すことができる。 関係副詞, 複合関係副詞の用法や機能を正しく理解できる。 世界遺産の種類, 登録の理由を理解し、その価値を知ることを通して異文化理解を深めることができる。
Lesson 16 Exploring Nature	4	[言語材料] 名詞節 [言語活動] 興味のある自然科学分野について話す。 自然現象が起こる原因について話す。 種の絶滅や絶滅危惧種について講義を聞く。 天気予報の役割についての文章を読む。 日食の起こるメカニズムとその特徴を書く。 書いた文章に基づいて話す。	○	○	○	○	自然現象や天気予報の果たす役割について話したり、日食について考えて、積極的にそれについて説明する文章を話したり書いたりしようとする。 興味のある自然科学の分野や自然現象の起こる原因などを話したり、モデル文を参考に、名詞節を使って日食についての情報をもとにわかりやすく解説する文章を書き、それに基づいて話すことができる。 さまざまな名詞節の使い方や機能を正しく理解できる。 種の絶滅, 気象, 宇宙をはじめ、自然科学に関心を持ち、理解を深めることができる。
Lesson 17 Wonders of Engineering Technology	4	[言語材料] 副詞節 [言語活動] engineering technology という言葉で思いつく製品について話す。 興味あるハイテク製品について話す。 新幹線の優秀性についてのスピーチを聞く。 さまざまなロボットについての説明文を読む。 生まれてほしいロボットについて書く。 書いた文章に基づいて話す。	○	○	○	○	興味のあるハイテク製品について話したり、生まれてほしいロボットについて、積極的に説明を話したり書いたりしようとする。 工学技術の生み出した製品について話したり、副詞節を使って生まれてほしいロボットについてわかりやすい文章を書き、それに基づいて話すことができる。 さまざまな副詞節の意味や使い方を理解できる 工学技術の長足の進歩に関心を持ち、知識を得て、ロボットの持つ可能性について理解を深めることができる。
後期中間考査	1	(考査まで 計 1 3 コマ)					
Lesson 18 Speak with the World	4	[言語材料] 仮定法過去 [言語活動] 英語学習が楽しいか否か、他にどんな言語に興味があるかを話す。 英語の丁寧表現について話す。 いくつかの英単語の歴史についての講義を聞く。 日本語起源の英語, bonsai について読む。 日本語として使われている英語でももとの意味と異なる言葉について書く。 書いた文章に基づいて話す。	○	○	○	○	英語と日本語を比べて、英語の特徴を話したり、日本語になっている英語について、積極的に話したり書いたりしようとする。 英語学習の楽しみや英語の特徴を話したり、モデル文を参考に、仮定法過去を織り交ぜて日本語になっている英語についてももとの意味との比較の上で文章を書き、それに基づいて話すことができる。 仮定法過去の形式や機能を理解できる。 国際共通語としての英語, 他言語に起源を持つ英語, 日本語に入った英語についてや世界のさまざまな言語に関心を持ち、外国語学習への意欲を高めることができる。
Lesson 19 History Might Have Changed If . . .	4	[言語材料] 仮定法過去完了 [言語活動] 歴史が好きかどうか、日本の歴史上の人物の誰に会いたいかを話す。 興味のある日本史上の時代について話す。 江戸時代の政策やその時代が長く続いた理由についての対話を聞く。 江戸時代の寺子屋と四文屋についての説明を読む。 後世に伝えたい日本史上の出来事について書く。 書いた文章に基づいて話す。	○	○	○	○	関心のある日本史上の時代や出来事について積極的に話したり書いたりしようとする。 関心のある日本の歴史上の出来事について簡単に話したり、仮定法過去完了を使ってわかりやすい文章を書き、それに基づいて話すことができる。 仮定法過去完了の形式や機能を理解できる 英語を通して日本の歴史に関心を持ち、理解を深め発信につなげることができる。
Lesson 20 This Is Japan	4	[言語材料] it の用法 [言語活動] 弁当と書道について説明する。 じゃんけん, 鯉のぼり, 生け花のいづれかについて説明する。 日本人の微笑についてのスピーチを聞く。 能, 狂言, 歌舞伎の説明を読む。 日本の年中行事から 1 つを選んでその説明を書く。 書いた文章に基づいて話す。	○	○	○	○	日本の風物や文化について積極的に話したり書いたりしようとする。 日本文化について簡単に話したり、it を使ってわかりやすく説明する文章を書き、それに基づいて話すことができる。 さまざまな it の用法を理解できる。 英語を通して日本伝統文化や年中行事の意味について関心を持ち、理解を深めることができる。
後期期末考査	1	(考査まで 計 1 3 コマ)					
年間総予定授業コマ数	4 8						

【基本情報】

教科	外国語	学年	2年	教科書	なし
科目	総合英語講読	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	TREASURE HUNT New Edition 4 (いいずな書店)
科目概要	これまで学んできたことを基にして、リスニング問題を含めた総合演習問題に取り組んでいく。				
到達目標	様々なジャンルの内容の文章を読みながら、読解力をつけていくと同時に聞く、話す、書く技能を授業内でバランスよく身につけていくことを目標とする。				
授業の進め方	長文読解を含めた総合問題演習を中心に進め、必要に応じて小テスト（確認テスト）を実施する。				
留意事項	辞書、ノートを用意し、予習、復習をしっかりと行うこと。				
家庭学習	重要な英文は声に出して何度も読み、さらにその文を暗記して書けるようにしておくこと。				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	授業内の言語活動への参加	20 %	個人（ペア）の積極的な取り組み
B. 表現の能力	自分の考えを口頭、文章でまとめて発表	20 %	相手に理解してもらえるための表現上の工夫
C. 理解の能力	まとまった英文内容を大まかに把握	20 %	リスニング演習問題、内容確認テスト
D. 知識・理解	英文を通して学んだことの背景知識の理解	40 %	筆記テスト

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
1. オリエンテーション	1						
2. 物語の展開をつかむ	3	文型および時制の使い方を理解する	○			○	登場人物の行動、感情を表す表現をまとめ理解できる
3. 同意表現を把握する	3	助動詞の使い方を理解する		○		○	同じ内容を異なった表現で表されていることが理解できる 段落ごとの主題をつかんで読み進めていくことができる
4. 段落の構成をつかむ	3	受動態の使い方を理解する			○	○	限られた時間で各段落の内容をつかむことができる
5. 速読演習	3	不定詞の使い方を理解する	○			○	指示語を理解することにより文章の正確な理解につなげることができる
6 指示語の理解	3	動名詞の使い方を理解する		○		○	話のカギとなる動詞に着目し、出来事の展開をはっきり理解することができる
7 出来事の流れをつかむ	4	不定詞・動名詞の使い方を理解する			○	○	
8 文章のテーマをつかむ	4	分詞の使い方（付帯状況）を理解する	○			○	段落ごとの主題を把握しながら英文全体のテーマを把握することができる
9 比較されているものを見抜く	4	関係代名詞の使い方を理解する		○		○	比較された文章のそれぞれの特徴をつかみ、対比することができる
10 速読演習	4	関係副詞の使い方を理解する			○	○	限られた時間で各段落および全体の内容をつかむことができる
11 筆者の考えをつかむ	4	比較（比較級、最上級）の使い方を理解する	○			○	読者に問いかけている内容を意識しながら読むことができる
12 トピックセンテンスを探す	4	比較の慣用表現を理解する		○		○	主題文とその内容を説明する具体例を把握することができる
13 文章の展開をつかむ	4	仮定法の使い方を理解する			○	○	テーマとなる語をおさえながら文章の展開をつかむことができる
14 段落の要旨をつかむ	4	仮定法の慣用表現を理解する	○			○	繰り返し使用されるキーワードを基に各段落の要旨をつかむことができる
15 速読演習	4	前置詞の使い方を理解する		○		○	限られた時間で設問の趣旨をとらえ答えを導くことができる
16 具体例の特徴をおさえる	5	接続詞の使い方を理解する			○	○	具体例を表している前後の内容に気をつけながら全体の内容をとらえることができる
17 まとめ	7	今までに習った重要事項の内容を確認する。	○			○	総合問題演習と応用問題に取り組み、理解できる

【基本情報】

教科	外国語	学年	2年	教科書	
科目	SS英語Ⅱ ＜コミュニケーション英語Ⅱ分野＞	単位数 (年間予定コマ数)	4 (128)	副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ Revised LANDMARK English Communication Ⅱ (KEIRINKAN) ・ 英単語・熟語 Bricks 1 (いっずな書店) ・ 改訂版 Jet Reading 英語速読テスト Level 1 (数研出版) ・ 三訂版 Listening Laboratory Standard α (数研出版) ・ 英文法・語法 Vintage 3rd Edition (いっずな書店)
科目概要	中学校とコミュニケーション英語Ⅰ及び、英語表現Ⅰで学んだことを基礎にして、聞く・話す・読む・書くといった言語活動を授業内で実施し、定着を図る。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書で新しく学ぶ単語・熟語576語(句)を理解する。(語彙力) ・ 課末の演習問題の英文を完全に覚える。(英文力) ・ 英語で自分の考え・意見を言うことができる。(英語での表現力) ・ 多様な英文を決められた時間内で概要把握ができる。(速読力) ・ 普通の速度の英文を聞き、大まかな内容を理解することができる。(リスニング力) 				
授業の進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習を前提に教科書を中心とした授業を進めていくため、単語・熟語の意味を辞書で調べ次の授業で扱う本文の概要をとらえて授業に臨むこと。 2. 英語を読む・聞く・書く・話すという4技能のバランスを考えた授業展開を行う。 3. 小テスト・課題学習を随所に取り入れていく。(目標点数に達しない場合は追試を実施) 4. ペア学習・音読の練習を積極的に取り入れ、英語の音声に慣れさせていく。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書・ノート(またはファイル)・辞典をいつも用意しておくこと。 ・ 評価は4回の定期考査(中間・期末)、夏季・冬季休業明けの確認テスト、単語テスト、提出物、日常の授業への取り組み姿勢をもとにして評価する。 ・ 定期考査では10~20点の割合でリスニング問題を出题する。 ・ 授業内でわからないことや疑問に思うことがあるときはその日のうちに質問し解決しておくこと。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習・復習をしっかりと行うこと(継続は力なり) ・ テレビ等の語学講座を利用し、英語の生の音に触れる機会を多く持つこと(習うより慣れよ) ・ 英語検定等の資格試験も積極的に活用し、各自の英語力向上に役立てていくこと 				
備考	この授業は週4コマ実施する(年間総授業数128コマ)。				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワーク等の活動に積極的に取り組んでいるか。	20%	授業時の活動状況 パフォーマンステスト 英文の暗唱
B. 外国語表現の能力	文法項目を使用した英文の作成、及び教科書本文のサマリー作成を適切に行うことができるか。	30%	ハンドアウト(英文・サマリー作成) 定期考査(英文・サマリー作成) パフォーマンステスト
C. 外国語理解の能力	教科書・単語集の英単語を身につけて、教科書本文、及び補助読解テキストの英文の概要を理解できるか。	30%	小テスト(単語テスト)、ハンドアウト(読解演習) 定期考査(Q&A/内容把握) 休み明け等の課題提出/休み明けテスト(春・夏・冬)
D. 言語や文化についての知識・理解	教科書本文で取り上げられテーマに関わる内容・背景知識を理解し意見や感想を表現できるか。	20%	ハンドアウト(自由英作文) 定期考査(自由英作文)

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
1. I'm the Strongest!	12	車いすテニスプレイヤー国枝信吾選手(スポーツ・生き方)				○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車いすテニスのルールを理解する。 ・ 慎吾が車いすテニス選手になるまでの経緯を理解する。 ・ 慎吾がどのようにスランプを克服したか理解する。 ・ プロ車いすテニス選手としての慎吾の願いを理解する。 ・ 一生懸命取り組んでいることについてエッセイを書く ・ 繰り返しを避けるための省略, 過去完了進行形について理解する。
2. Tokyo's Seven-minute Miracle	12	世界を驚かせた新幹線清掃チーム TESSEI(職業・日本文化)				○	<ul style="list-style-type: none"> ・ テッセイの仕事内容を理解する。 ・ テッセイの仕事の特徴を理解する。 ・ テッセイの仕事を支える日本の清掃文化について理解する。 ・ テッセイの仕事への誇りについて理解する。 ・ 日本が世界に対して誇れることについて意見交換をする。 ・ 強調のための倒置, 形式目的語のitについて理解する。
<前期中間考査> 前期中間考査まで25コマ	1						
3. Saint Bernard Dogs	12	スイスの国犬セントバーナードの歴史(動物・外国)				○	<ul style="list-style-type: none"> ・ セントバーナード犬の救助犬としての歴史を理解する。 ・ 優秀な救助犬, バリーの功績を理解する。 ・ セントバーナード犬が売りに出された経緯を理解する。 ・ 売りに出されるセントバーナード犬を救うため, スイスの人々がとった行動を理解する。

			○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・人間と親しい関係を築く動物について情報交換をする。 ・受動態の分詞構文、完了形の分詞構文について理解する。
4. Chanel's Style	1 2	ファッション界のカリスマ シャネルの生き方（女性・生き方）			○ ○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・IT業界とファッション業界、それぞれの革新者について理解する。 ・シャネルがシンプルで快適な服を作った時代背景について理解する。 ・シャネルが考案したファッション品を理解する。 ・革新者であり続けたシャネルの原動力を理解する。 ・好きな革新的人物についてエッセイを書く。 ・S + V + 分詞 / S + V + O + 分詞, 付帯状況を表す with + O + C について理解する。
<前期期末考査> 前期期末考査まで25コマ	1					
5. Science of Love	1 0	科学で解明する恋に落ちる原因 （心理・科学）		○	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ人は恋をするのかについての発表の概要を理解する。 ・子ども時代の経験、遺伝子、体内の化学物質、それぞれを理由とする3つの学説を理解する。 ・本文中の3つの学説で、どの学説に興味があるかとその理由について意見交換する。 ・同格の that 節、疑問詞 + do you think (+ S) + V? について理解する。
6. Gaud and His Message	1 0	建築家ガウディとその遺志を継ぐ 日本人彫刻家（芸術・生き方）		○	○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・ガウディとサグラダ・ファミリアの歴史を理解する。 ・外尾が専任彫刻家になるまでの経緯を理解する。 ・外尾が述べる、ガウディの信条について理解する。 ・ガウディと外尾についてエッセイを書く。 ・関係副詞の非限定用法、 if 節を用いない仮定法について理解する。
7. Letters from a Battlefield	1 0	硫黄島の戦いと兵士からの手紙 （戦争・平和）	○ ○		○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・硫黄島から兵士が家族に宛てた手紙について理解する。 ・硫黄島の戦いや栗林中将の作戦について理解する ・訪れてみたい日本の世界遺産について書き、発表する。 ・譲歩を表す複合関係詞、動名詞の意味上の主語について理解する。
<後期中間考査> 後期中間考査まで33コマ	1					
GTEC対策	4					
8. Edo: A sustainable society	1 0	江戸時代のリサイクル社会 （環境・歴史）	○ ○	○	○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の循環型社会について理解する。 ・今日のゴミ問題について理解する。 ・江戸時代の自然環境と生活水準の変化を理解する。 ・もったいないと思うものについて意見交換する。 ・注意すべき関係代名詞の非限定用法、独立分詞構文について理解する
9. AI and Our Future	1 0	AI 技術が切り開く未来 （科学・生活）	○ ○ ○ ○	○	○ ○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・AIとは何かを理解する。 ・ディープ・ラーニングの仕組みを理解する。 ・AIがもたらす産業の効率化について理解する。 ・AIの発展に伴う脅威と人類との共存について理解する。 ・AIの賛否について意見交換する。。 ・as if [though] + 仮定法、助動詞 + have + 過去分詞について理解する
10. Bhutan: A happy country	1 0	幸福の国ブータン(外国・国際社会)	○	○	○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・ブータンの地理と歴史を理解する。 ・ブータンの国民総幸福量への捉え方について理解する。 ・ブータン政府の政策を理解する。 ・国民総幸福量を上げるための策についてエッセイを書く。 ・強調構文、副詞節中の (S + b e) の省略について理解する。
後期期末考査 後期期末考査まで34コマ	1					
科学英語Ⅱ	1 0		○	○		<ul style="list-style-type: none"> ●3年次の課題研究英語発表会に向けた取り組みを行う ・各班の論文の英語への翻訳作業 ・英語によるプレゼンテーションの基礎的なテクニックの学習
年間予定授業コマ数	1 2 8					

【基本情報】

教科	外国語	学年	2年	教科書	
科目	SS英語Ⅱ ＜英語表現Ⅰ分野＞	単位数 (年間予定コマ数)	1 (32)	副教材	Departure English Expression I Revised (TAISHUKAN)
科目概要	基本的な言語規則に基づいて、様々な場面に応じて適切に話すことや書くことが出来るようにし、あわせて論理的思考力や批判的思考力を養うことをねらいとしている科目である。				
到達目標	英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 各レッスンのモデル会話文を通して、発音・イントネーション、重要表現、文化背景等について学習する。また、文法事項を体系的に学習し、練習問題等で確実に身につけ、応用問題への基礎固めをする。具体的には 予習していることを前提に授業を進める。進むペースが速いので家庭での予習・復習が必ず必要となる。また、わからないところは授業中及び授業後に積極的に質問をすること。 リスニングやスピーキングの基礎になる音読練習を重視する。その意味を理解して積極的に声を出すこと。 Expressing で自分のことや自分の周りのことを英語で言えるようトレーニングする。間違いを恐れなくて意欲的に取り組むこと。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 音読練習やペアワークでは積極的に大きな声を出すこと。 予習・復習といった家庭学習を確実にやること。また毎回課題を出すので、正確・丁寧にやり、期日に遅れないよう取り組むこと。課題の提出については評価(成績)の1部となる。 ノート、筆記用具、辞書を必ず持参すること。もし、忘れ物をした場合は事前に申し出ること。 プリント等の配布物はファイルを用意して保管すること。 休み時間のうちに授業準備をしておき、チャイムと同時に学習できる体勢を整えておくこと。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> 最低でも1時間の授業で進む所までは予習をすること。モデル会話文は英文の意味を確認したら、3回以上は音読練習をすること。グラマーの解説文をよく読み、エクササイズの問題を解くこと。その際、わからないところは必ずチェックして、授業で確認すること。復習ではやはり音読練習を行い、解説文→問題といった具合に再度学習事項の確認をすること。予習→授業→復習で3回同じ部分の学習をするということを習慣づけること。 授業ではリスニングや音読練習の時間を十分にとることができないので、特に、リスニングについては、ラジオ・テレビの英会話番組を、また、単語集付属のCD等を活用し自ら学習すること。 				
備考	この科目は1年次から2年間で履修する。				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> モデル会話に関心を持ち聞き、発話しようとしている。 間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。 	10%	授業中の活動・発表
B. 表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> モデル会話や例文を英語らしい発音で発話することができる。 自分や周りのことを話すことができる。 学んだ文法を使って、文章を書くことができる。 	5%	授業中の活動・発表・課題の提出
C. 理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選ぶことができる。 モデル会話を英語らしい発音で読むことができる。 パラグラフの構成を理解している。 	5%	授業中の活動・課題の提出・小テスト・定期考査
D. 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選ぶことができる。 モデル会話を英語らしい発音で読むことができる。 パラグラフの構成を理解している。 	80%	授業中の活動・課題の提出・小テスト・定期考査

【年間計画】

単元	配当時間	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
Lesson 11 Did You Get My Message?	3	[言語材料] 動名詞 [言語活動] 使っている伝達の方法について話す。 メールでの通信について話す。 スマートフォンを持つことについての議論を聞く。 SNSの便利さと問題について読む。 高校生がスマートフォンを持つことの是非について意見を書く。 書いた文章に基づいて話す。		○	○			伝達手段としてのスマートフォンの使用について積極的に話したり書いたりしようとする。 学んだ文法事項である動名詞を極力使って、情報伝達の方法としてのスマートフォンやSNSの使用について意見を書いたり話したりすることができる。 動名詞の用法・機能を正しく理解できる。 メールをはじめとする通信・伝達手段について、自らの経験を踏まえて功罪を考え、自らの行動につなげることができる。
Lesson 12 Do You Know the Sport?	3	[言語材料] 分詞 [言語活動] やってみたいスポーツについて話す。 最近見たスポーツについて話す。 マラソンの起源について聞く。 3つのスポーツの起源について読む。 興味のあるスポーツについて起源や見所などを調べて書く。 書いた文章に基づいて話す。		○	○			自分の好きなスポーツについて、積極的に情報を話したり書いたりしようとする。 学んだ文法事項である動名詞を極力使って、自分の好きなスポーツについてわかりやすい文章を書き、それに基づいて話すことができる。 分詞の用法・機能を正しく理解できる。 スポーツについて起源やルールなどを理解し、歴史や文化とスポーツとの関係について認識を深めることができる。
前期中間考査	1	(考査まで 7コマ)						
Lesson 13 Increasing or Decreasing?	4	[言語材料] 比較 [言語活動] 世界の人口と人口の多い国について知っていることを話す。 人口過剰をもたらす影響とその原因について話す。		○	○			人口問題について話したり、日本の少子化について、その原因や問題点を考え、解説する文章を積極的に話したり書いたりしようとする。 比較表現を使って人口過剰の原因と結果について話したり、高齢化の原因や問題点を述べた文章を参考に、少子化についての説明文を書き、それに基づいて話すことができる。

		アジアのいくつかの国々の人口密度についての説明を聞く。 世界の平均寿命についての文章を読む。 日本の少子化の原因と影響について書く。 書いた文章に基づいて話す。	○ ○ ○ ○	比較の表現を正しく理解できる 世界の人口問題・平均寿命や日本の少子高齢化について理解し、その原因や問題点を理解することができる。
Lesson 14 A Person I Admire	3	[言語材料] 関係代名詞, 複合関係代名詞 [言語活動] 歴史上の尊敬する人物について話す。 存命中の尊敬する人物について話す。 杉原千畝についての説明を聞く。 マララ・ユスフザイについての文章を読む。 尊敬する人物について書く。 書いた文章に基づいて話す。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	尊敬する人物について紹介する文章を積極的に話したり書いたりしようとする。 何人かの人物の生き方や業績を述べた文章を参考に、関係代名詞を使って自分が尊敬する人物について書き、それに基づいて話すことができる。 関係代名詞, 複合関係代名詞の用法や機能を正しく理解できる。 さまざまな人物の生き方や業績を理解し、自分の生き方につなげることができる。
前期期末考査	1	(考査まで 計8コマ)		
Lesson 15 Find Out More about Our Treasures	3	[言語材料] 関係副詞, 複合関係副詞 [言語活動] 日本と世界の世界遺産について知っていることを話す。 世界遺産に登録される理由と行ってみたい世界遺産について話す。 富士山が世界遺産に登録された理由についての対話を聞く。 アウシュヴィッツについての文章を読む。 訪れることを勧めたい世界遺産について書く。 書いた文章に基づいて話す。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	自分が関心のある世界遺産について調べ、説明する文章を積極的に話したり書いたりしようとする。 関係副詞を使って自分の関心がある世界遺産について、モデル文を参考にわかりやすく書き、それに基づいて話すことができる。 関係副詞, 複合関係副詞の用法や機能を正しく理解できる。 世界遺産の種類, 登録の理由を理解し、その価値を知ることを通して異文化理解を深めることができる。
Lesson 16 Exploring Nature	2	[言語材料] 名詞節 [言語活動] 興味のある自然科学分野について話す。 自然現象が起こる原因について話す。 種の絶滅や絶滅危惧種について講義を聞く。 天気予報の役割についての文章を読む。 日食の起こるメカニズムとその特徴を書く。 書いた文章に基づいて話す。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	自然現象や天気予報の果たす役割について話したり、日食について考えて、積極的にそれについて説明する文章を話したり書いたりしようとする。 興味のある自然科学の分野や自然現象の起こる原因などを話したり、モデル文を参考に、名詞節を使って日食についての情報をもとにわかりやすく解説する文章を書き、それに基づいて話すことができる。 さまざまな名詞節の使い方や機能を正しく理解できる。 種の絶滅, 気象, 宇宙をはじめ、自然科学に関心を持ち、理解を深めることができる。
Lesson 17 Wonders of Engineering Technology	2	[言語材料] 副詞節 [言語活動] engineering technology という言葉で思いつく製品について話す。 興味あるハイテク製品について話す。 新幹線の優秀性についてのスピーチを聞く。 さまざまなロボットについての説明文を読む。 生まれてほしいロボットについて書く。 書いた文章に基づいて話す。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	興味のあるハイテク製品について話したり、生まれてほしいロボットについて、積極的に説明を話したり書いたりしようとする。 工学技術の生み出した製品について話したり、副詞節を使って生まれてほしいロボットについてわかりやすい文章を書き、それに基づいて話すことができる。 さまざまな副詞節の意味や使い方を理解できる 工学技術の長足の進歩に関心を持ち、知識を得て、ロボットの持つ可能性について理解を深めることができる。
後期中間考査	1	(考査まで 計8コマ)		
Lesson 18 Speak with the World	3	[言語材料] 仮定法過去 [言語活動] 英語学習が楽しいか否か、他にどんな言語に興味があるかを話す。 英語の丁寧表現について話す。 いくつかの英単語の歴史についての講義を聞く。 日本語起源の英語, bonsai について読む。 日本語として使われている英語でももとの意味と異なる言葉について書く。 書いた文章に基づいて話す。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	英語と日本語を比べて、英語の特徴を話したり、日本語になっている英語について、積極的に話したり書いたりしようとする。 英語学習の楽しみや英語の特徴を話したり、モデル文を参考に、仮定法過去を織り交ぜて日本語になっている英語についてももとの意味との比較の上で文章を書き、それに基づいて話すことができる。 仮定法過去の形式や機能を理解できる。 国際共通語としての英語, 他言語に起源を持つ英語, 日本語に入った英語についてや世界のさまざまな言語に関心を持ち、外国語学習への意欲を高めることができる。
Lesson 19 History Might Have Changed If . . .	3	[言語材料] 仮定法過去完了 [言語活動] 歴史が好きかどうか、日本の歴史上の人物の誰に会いたいかを話す。 興味のある日本史上の時代について話す。 江戸時代の政策やその時代が長く続いた理由についての対話を聞く。 江戸時代の寺子屋と四文屋についての説明を読む。 後世に伝えたい日本史上の出来事について書く。 書いた文章に基づいて話す。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	関心のある日本史上の時代や出来事について積極的に話したり書いたりしようとする。 関心のある日本の歴史上の出来事について簡単に話したり、仮定法過去完了を使ってわかりやすい文章を書き、それに基づいて話すことができる。 仮定法過去完了の形式や機能を理解できる 英語を通して日本の歴史に関心を持ち、理解を深め発信につなげることができる。
Lesson 20 This Is Japan	2	[言語材料] it の用法 [言語活動] 弁当と書道について説明する。 じゃんけん, 鯉のぼり, 生け花のいづれかについて説明する。 日本人の微笑についてのスピーチを聞く。 能, 狂言, 歌舞伎の説明を読む。 日本の年中行事から1つを選んでその説明を書く。 書いた文章に基づいて話す。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	日本の風物や文化について積極的に話したり書いたりしようとする。 日本文化について簡単に話したり、it を使ってわかりやすく説明する文章を書き、それに基づいて話すことができる。 さまざまな it の用法を理解できる。 英語を通して日本伝統文化や年中行事の意味について関心を持ち、理解を深めることができる。
後期期末考査	1	(考査まで 計9コマ)		
年間総予定授業コマ数	32			

【基本情報】

教科	探究	学年	2年	教科書	なし
科目	課題探究	単位数 (年間予定コマ数)	1 (32)	副教材	なし
科目概要	1年次で実施した「探究基礎」をもとに、自らテーマを設定して探究活動を理数科・普通科共通して行う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して自律的に調査研究活動を行い、結果を導き出すことができる。 ・仲間と協働して活動し、全体に対して発表することができる。 ・ 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに基づいてグループで活動する。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内での活動を重視し、お互いに協力して活動する。 ・グループにかかわらず、積極的に意見を交わしたり議論をする。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・研究を進めるに当たって、必要な情報や資料を積極的に集めたり、大学や専門機関と積極的に連携することを推奨する。 				
備考	<p>普通科はクラスに関わらず、共通したテーマでグループを作り活動する。 理数科は理数に関わるテーマで「SS研究Ⅱ」と連携しながら独自のグループで活動する。</p>				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	グループで協力して積極的に活動をしようとしている。	25%	活動ごとのレポートおよび発表会での発表によって評価する。
B. 思考・判断・表現	論理的に物事を考え、考察しようとしている。	25%	
C. 技能（資料活用能力）	情報や活動内容をまとめたり、内容をわかりやすく発表する。	25%	
D. 知識・理解	設定したテーマに関わる知識や情報を理解しようとしている。	25%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
課題探究	20	グループごとに自ら設定したテーマについて調査研究活動を行う。	○	○	○	○	設定したテーマに基づいて、探究活動を行う。 グループで積極的かつ計画的に研究を進める。 (活動レポートによる評価)
中間報告会・発表会準備	6	研究テーマをもとに発表用のポスターまたはプレゼンテーションを作成する。	○	○	○	○	研究内容を論理的に分析しまとめる。 「伝える」ことを意識したポスターやプレゼンテーションを作成する。(作成したポスター、プレゼンテーションの評価)
発表会	6	中間報告会・課題探究発表会で発表する。	○	○	○	○	自らの発表をしっかりと行うとともに、他の発表に対してもしっかりと耳を傾け積極的に理解しようとする。 (発表姿勢による評価、生徒自信による評価)

【基本情報】

教科	スーパーサイエンス	学年	2年	教科書	なし
科目	スーパーサイエンス(SS)研究Ⅱ	単位数 (年間予定コマ数)	1 (32)	副教材	なし
科目概要	①課題研究基礎実験：理数に関わるテーマで「課題研究」を行う上で必要な実験や情報分析を行う。 ②課題研究中間報告会：課題研究基礎実験において得られた実験結果を考察し、発表し議論する。				
到達目標	①「課題研究」の内容を検証し、中身を深める。 ②発表や議論を通して研究内容の深化を図る。				
授業の進め方	・課題研究基礎実験では、「課題探究」の授業と連携してグループごとに計画を立てて実施します。 ・大学・研究機関の研究者、SS研究Ⅰ受講者に対して、研究発表を行い議論することで、研究の深化を図る。				
留意事項	・グループ内での活動を重視し、お互いに協力して活動する。 ・グループにかかわらず、積極的に意見を交わしたり議論をする。				
家庭学習	・研究を進めるに当たって、必要な情報や資料を積極的に集めたり、大学や専門機関と積極的に連携することを推奨する。				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	「課題研究」にかかわる活動に積極的かつ意欲的に取り組んでいるか。	25%	「課題研究基礎実験」では担当教員の生徒活動評価作成したポスター・論文の評価。
B. 思考・判断・表現	「課題研究」にかかわる活動において、論理的に思考ができ、さらに適切に表現ができているか。	25%	
C. 技能（資料活用能力）	「課題研究」にかかわる活動において、技能の習得及び資料の活用が適切になされているか。	25%	
D. 知識・理解	「課題研究」にかかわる活動に科学的知識等の理解がなされているか。	25%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
課題研究基礎実験	20	課題研究に関わる実験・調査	○	○	○	○	設定したテーマに基づいて、計画的に検証実験や調査・分析を行う。(活動評価)
中間報告会準備	6	課題研究の中間報告用ポスター作成	○	○	○	○	活動にもとづいたポスターを作成する。(ポスター評価)
中間報告会	6	課題研究の中間報告	○	○	○	○	中間データをまとめて発表する。(発表評価)